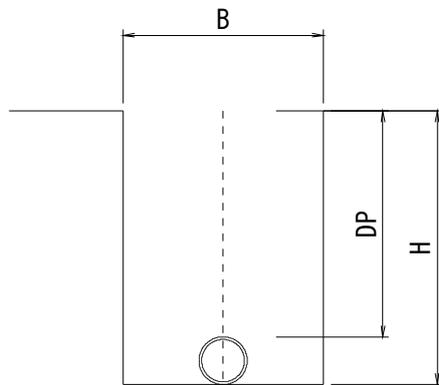


付則 4 配管工事標準図集

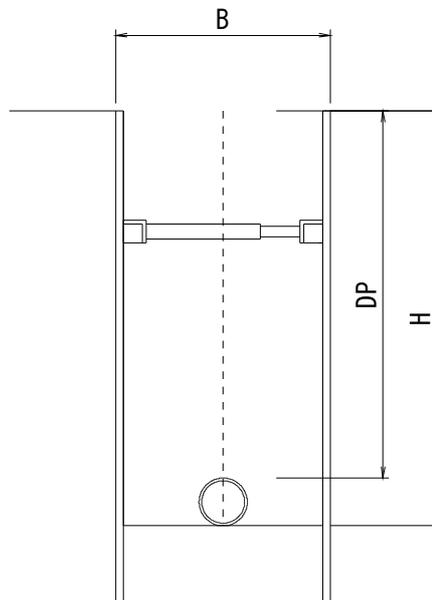
図面名称

1-1 標準掘削断面図（機械掘削）

土留なし



軽量鋼矢板



ダクティル鑄鉄管（DIP-NS形）

呼び径 [mm] D	掘削幅 [m] B	床掘高 [m] H	
		DP=800	DP=1300
75	0.600	0.890	1.390
100	0.650 (0.900)	0.920	1.420
150	0.700 (0.900)	0.970	1.470
200	0.750 (0.900)	1.020	1.520
250	0.800 (0.900)	1.070	1.570
300	0.850 (0.900)	1.120	1.620
350	(0.950)	—	1.670
400	(1.000)	—	1.730
450	(1.050)	—	1.780

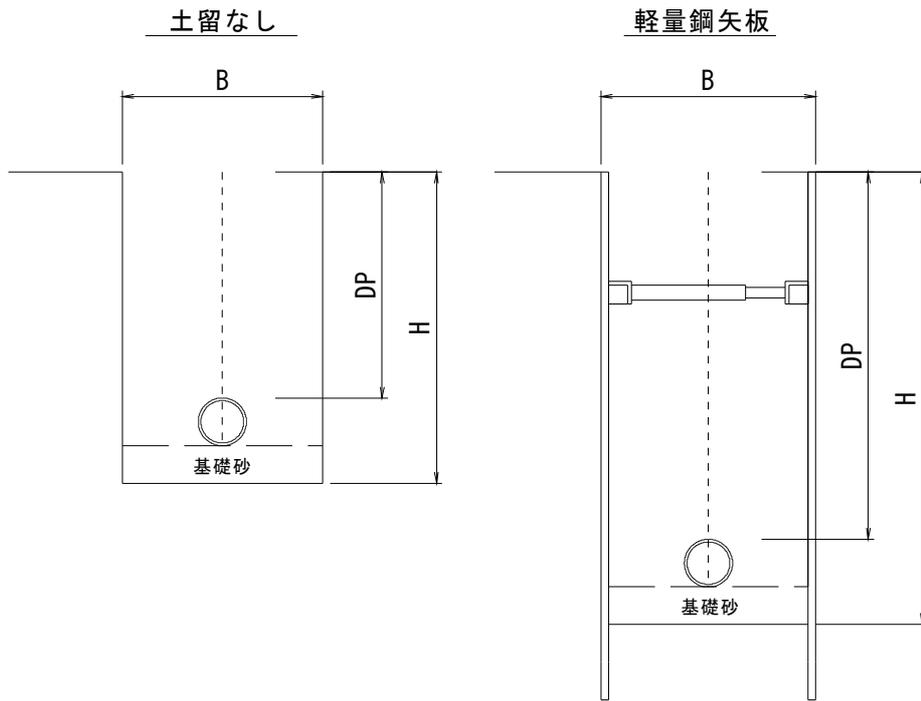
ダクティル鑄鉄管（DIP-GX形）

呼び径 [mm] D	掘削幅 [m] B	床掘高 [m] H	
		DP=800	DP=1300
75	0.600	0.890	1.390
100	0.600 (0.900)	0.920	1.420
150	0.600 (0.900)	0.970	1.470
200	0.600 (0.900)	1.020	1.520
250	0.650 (0.900)	1.070	1.570
300	0.700 (0.900)	1.120	1.620
350	(0.950)	—	1.680
400	(1.000)	—	1.730
450	(1.050)	—	1.780

※（ ）内は、軽量鋼矢板（軽量金属支保）を使用した場合の寸法

注意事項

ここに示す掘削幅は、実務必携「2-1-3 掘削幅の算定」により算出した標準掘削幅であり、施工条件により掘削幅は異なるため、設計図書を十分確認すること。



ポリエチレン管（PEP）

呼び径 [mm] D	掘削幅 [m] B	床掘高 [m] H	
		DP=800	DP=1300
50	0.600	0.960	1.460
75	0.600	0.990	1.490
100	0.600 (0.900)	1.030	1.530
150	0.600 (0.900)	1.080	1.580
200	0.600 (0.900)	1.150	1.650

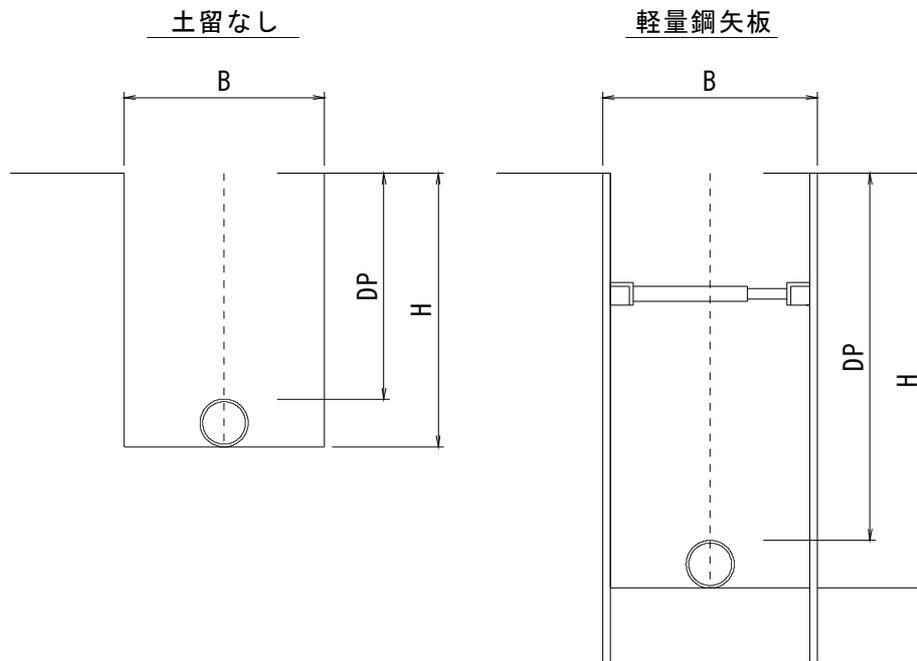
※（ ）内は、軽量鋼矢板（軽量金属支保）を使用した場合の寸法

注意事項

ここに示す掘削幅は、実務必携「2-1-3 掘削幅の算定」により算出した標準掘削幅であり、施工条件により掘削幅は異なるため、設計図書を十分確認すること。

図面名称

1-3 標準掘削断面図（機械掘削）



塩化ビニル管（RRHIVP）

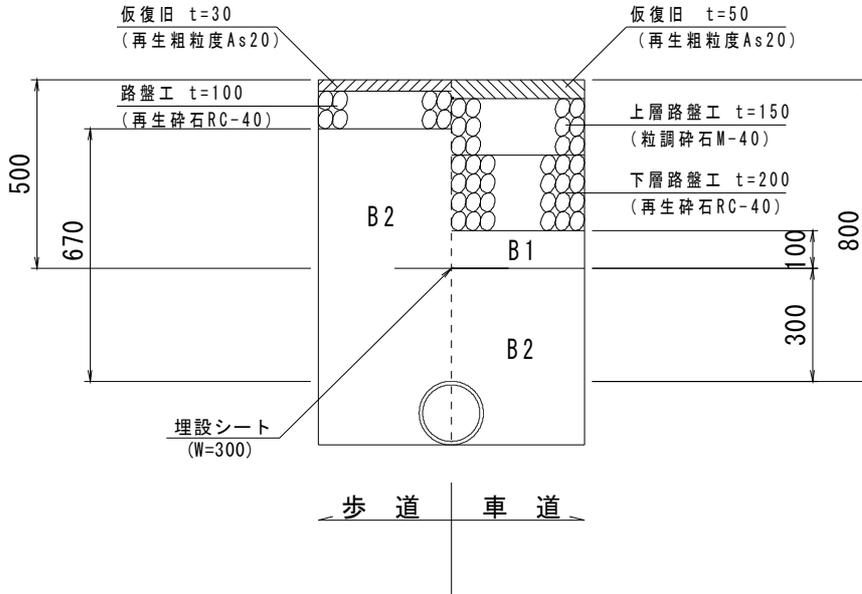
呼び径 [mm] D	掘削幅 [m] B	床掘高 [m] H	
		DP=800	DP=1300
50	0.600	0.860	1.360
75	0.600	0.890	1.390
100	0.600 (0.900)	0.920	1.410
125	0.600 (0.900)	0.940	1.440
150	0.600 (0.900)	0.970	1.470

※（ ）内は、軽量鋼矢板（軽量金属支保）を使用した場合の寸法

注意事項

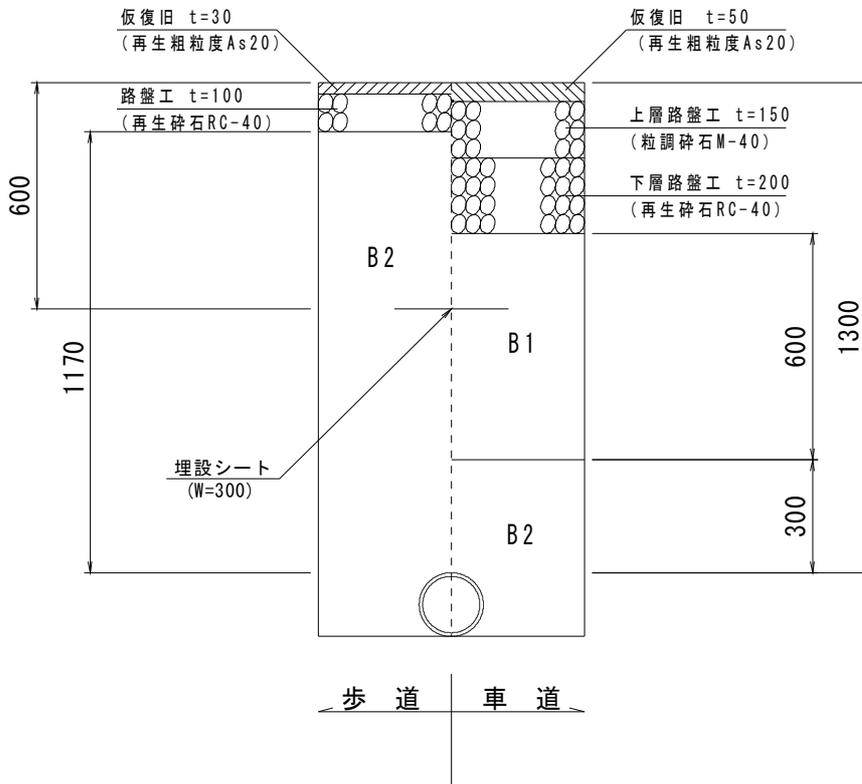
ここに示す掘削幅は、実務必携「2-1-3 掘削幅の算定」により算出した標準掘削幅であり、施工条件により掘削幅は異なるため、設計図書を十分確認すること。

埋戻工標準図
(浅層埋設 DIP)



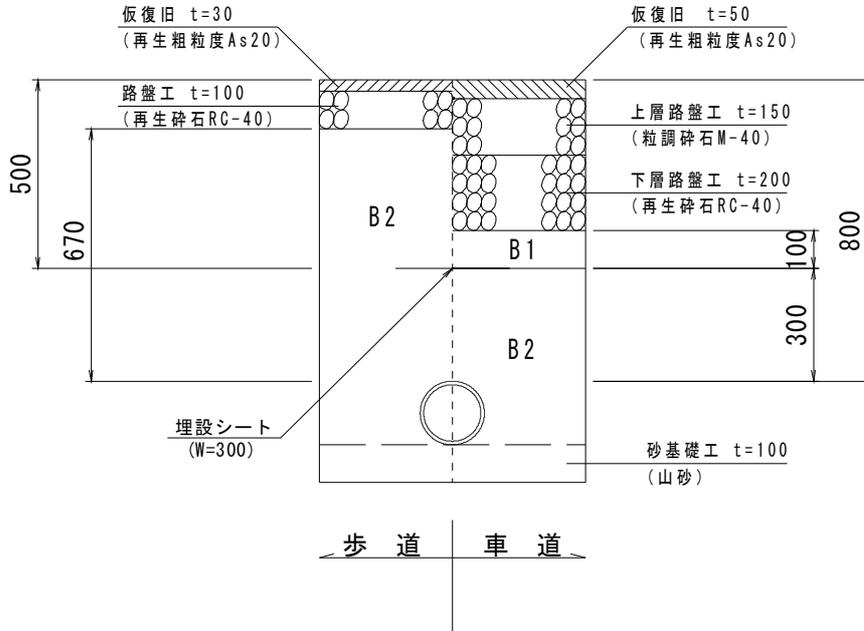
B1 : 機械埋戻 (再生砕石)
B2 : 機械埋戻 (山砂)

埋戻工標準図
(深層埋設 DIP)



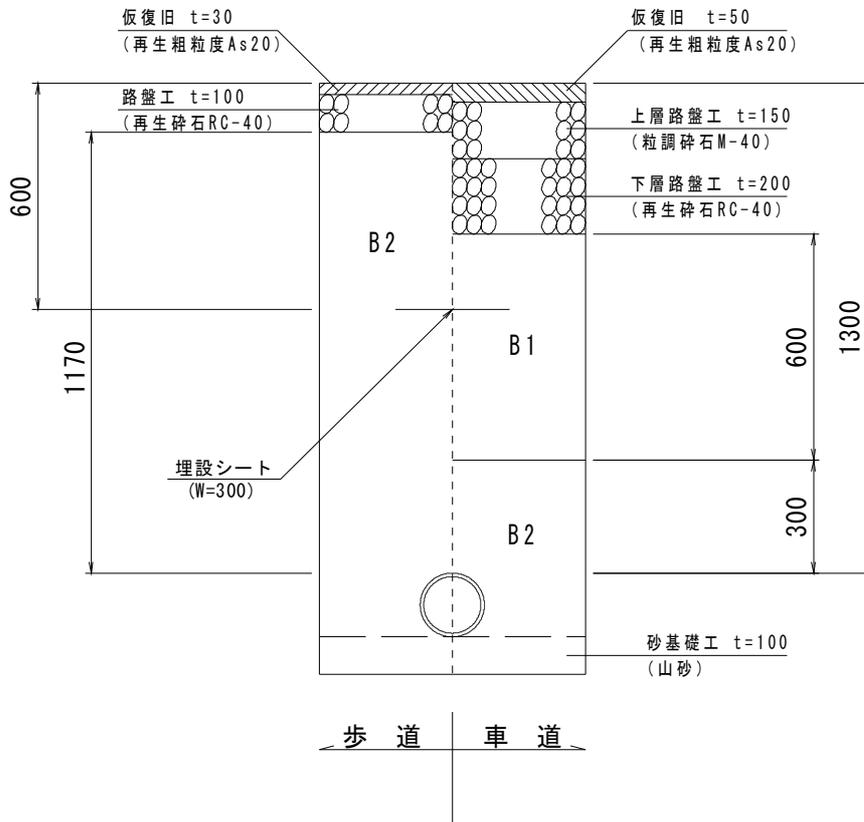
B1 : 機械埋戻 (再生砕石)
B2 : 機械埋戻 (山砂)

埋戻工標準図
(浅層埋設 PEP)



B1 : 機械埋戻 (再生碎石)
B2 : 機械埋戻 (山砂)

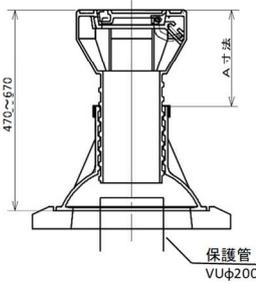
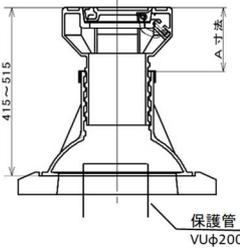
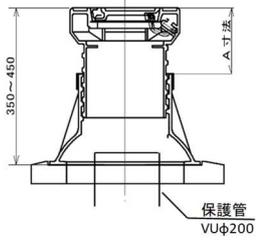
埋戻工標準図
(深層埋設 PEP)

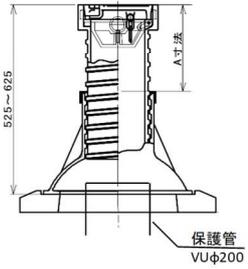
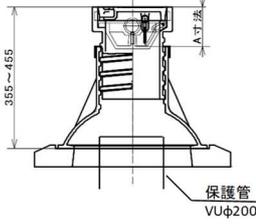
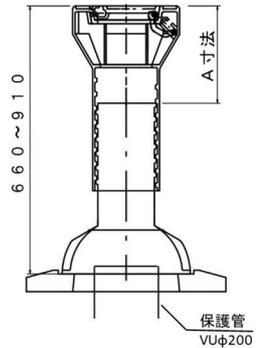


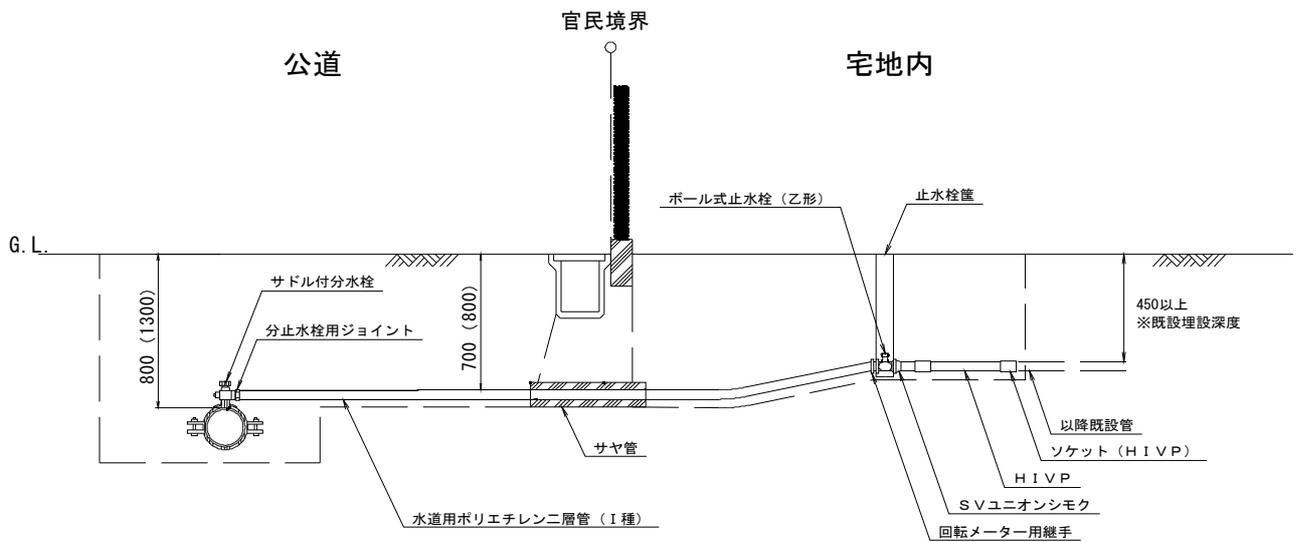
B1 : 機械埋戻 (再生碎石)
B2 : 機械埋戻 (山砂)

図面名称

3 仕切弁筐設置標準図

形状	浅層埋設型					
製品図						
仕様	タイプ I		タイプ II		タイプ III	
バルブ径	φ50	φ75	φ100	φ150	φ200	φ250 φ300
A寸法	260		165		160	
伸縮量	+		110	110	50	60
	-		90	50	30	40
管上土被り	800		800		800	900

形状	浅層埋設型(インターロッキング用)				従来型					
製品図										
仕様	タイプ I				タイプ II				従来型	
バルブ径	φ50	φ75	φ100	φ150	φ200	φ250	φ300	φ350	φ400	
A寸法	240				110				280	
伸縮量	+				110	110	50	50	150	
	-				90	50	40	30	100	
管上土被り	800				800	900	1300			



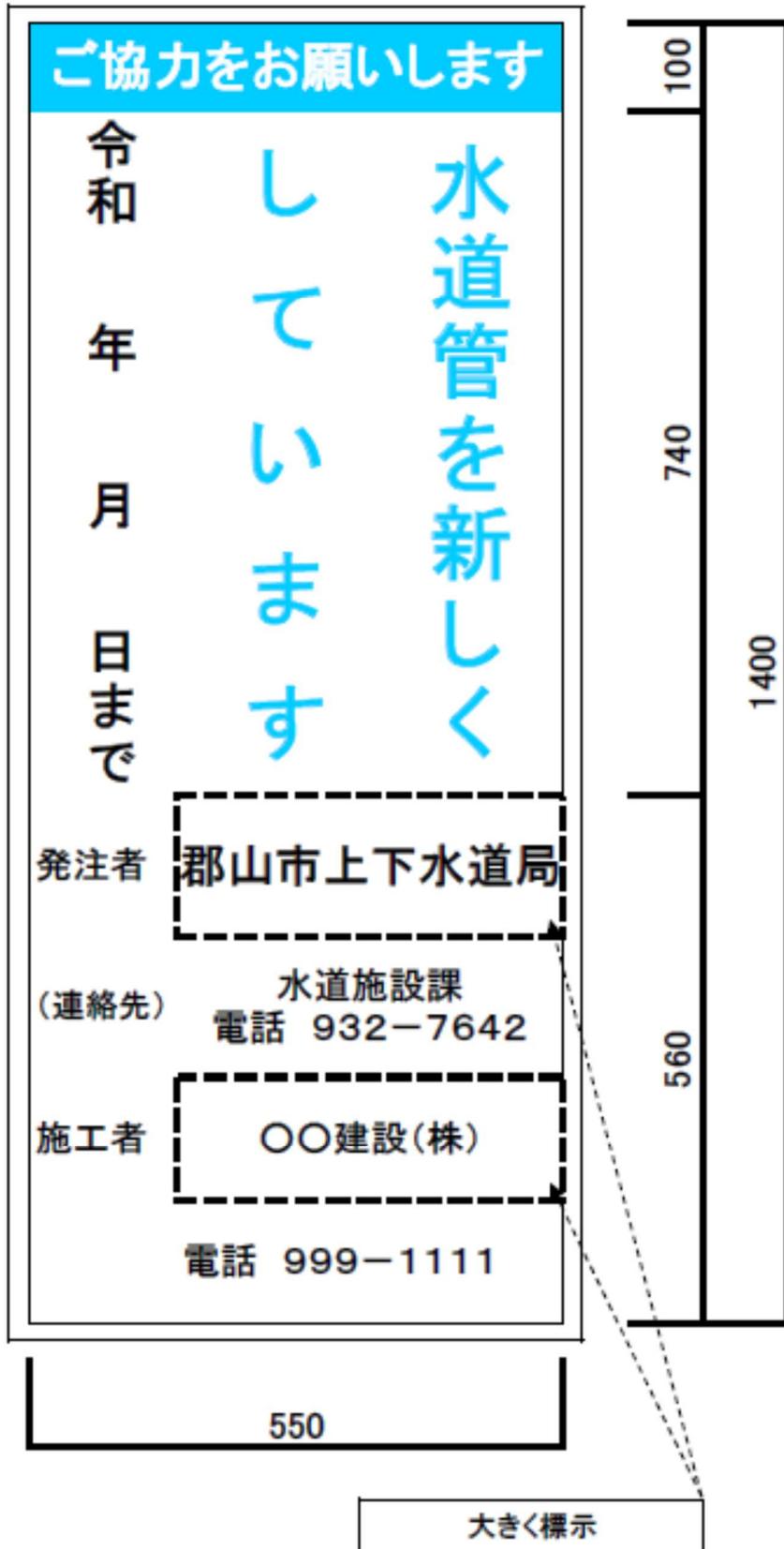
※ () 内は深層埋設の場合

<留意事項>

- ① 布設替対象範囲 原則として宅地内の第1次止水栓までを対象とする。ただし約2m以内に止水栓が無い場合は約1m以内に第1次止水栓を設け約2mの範囲で布設替する。その他、特別な場合については、監督員と別途協議し施工すること。
- ② サヤ管の仕様 塩ビ管とする。ただし貫通できない場合はSP管とし管端はポリエチレン管を傷つけないよう措置すること。
- ③ 止水栓筐の仕様

φ20	φ75×550~800 (底板付)
φ25~40	φ100×550~800 (底板付)

工事説明板（取付道路等）



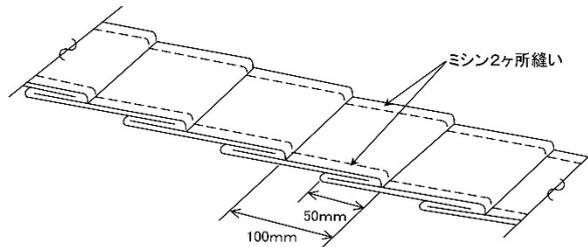
管明示テープ

上水道 郡山市上下水道局 布設年次
 布設年次 上水道 郡山市上下水道局
 上水道 郡山市上下水道局 布設年次

50

項目	寸法値
厚さ (mm)	0.20
巾 (mm)	50.0
長さ (m)	20.0

埋設シート

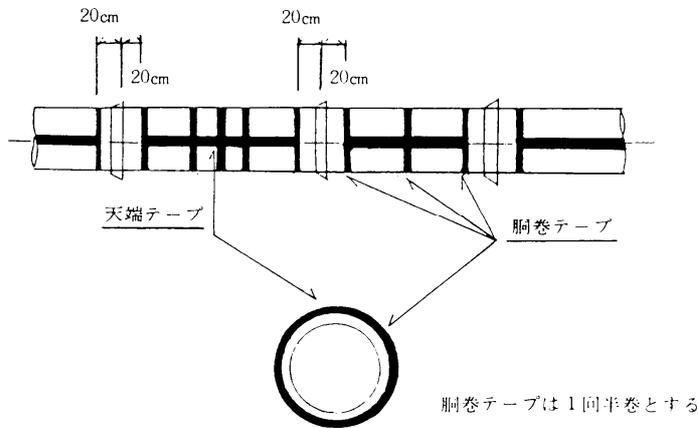


水道管注意

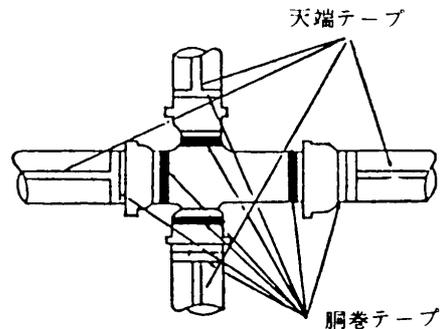
立会を求めて下さい 郡山市上下水道局

項目	寸法値
巾 (mm)	300.0
厚さ (mm)	0.20~0.25
長さ (m)	50.0
色	青/白文字
形状	2倍折込

管明示テープの施工例



直管



異形管

(1) テープによる明示の方法

- a . 胴巻きテープ及び天端テープを併用する。
- b . 明示年は当年のものを使用するものとする。
- c . 胴巻きテープは、1回半巻きとし、天端テープは、両端 20～30 cm とし、全延長とする。
- d . 既設管については、その埋設年度を容易に明確にできないときは、埋設年度の入らないテープで明示することができる。
また、既設管の周囲を露出させることが困難な場合は、可能な範囲で明示するものとする。

(2) 胴巻きテープの間隔

- a . 管長 4m 以下 3 箇所/本
管の両端から 20～30 cm とし、並びに中間 1 箇所
- b . 管長 5～6m 4 箇所 /1 本
管の両端から 50 cm 並びに中間 2 箇所
- c . 特殊管で a、b に該当しない場合は、テープの間隔が 2m 以上にならないよう箇所を増加する。